

平成30年度の移住促進事業を振り返って

平成29年度の愛媛県への移住者は1085人にのぼり、平成27年度あたりから前年対比のほぼ倍増で推移している。また、株式会社メディアプラス研究所による「ストレスオフ県ランキング」では、2年連続1位を獲得。このようにここ数年、愛媛県が暮らしやすい場所として認知され移住者の増加につながっている。そして、平成30年度も愛媛県では移住促進の様々な取り組みを行ってきた。今回は、振り返りも兼ねて取り組んだ事例をいくつか紹介したい。

前年の集客を大きく上回った 愛媛県単独フェア

平成30年度の愛媛県単独移住フェアは、東京4回・大阪3回の計7回開催した。なかでも年度最初である6月24日に開催した「あのこの愛媛移住フェア」は、県内20市町すべてがブース出展し、さらには地域おこし協力隊募集説明会も併設するという、愛媛県主催の移住フェアでは最大規模の移住フェアとなった。来場者数も122組176名と過去最

高を記録。その後開催した「愛あるえひめ暮らしフェア」でも、東京約50名、大阪約30名だった前年と比べ、平均来場者数は東京で75名、大阪で90名と前年比を大きく上回った。

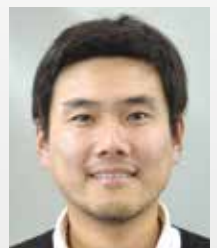


「愛あるえひめ暮らしフェア」特別講演の様子

大阪の会場を地下街のスペースに変更したことやWEB広告によるPR強化などが集客の要因として挙げられるが、移住フェアでの人気プログラムである「先輩移住者による特別講演」が、愛媛暮らしの魅力を伝えるうえで強力なコンテンツとなっている。

新たなコミュニティが生まれる 「移住体感ツアー」

前年に引き続き実施した「えひめ暮らし魅力体感ツアー」も愛媛県の移住促進には欠かせないものとなっている。東予、中予、南予のそれぞれ3地域で6泊7日滞在し、愛媛の豊かな自然や文化、その土地ならではの食に触れてもらうというツアーで、祭りや伝統工芸の体験



えひめ移住
コンシェルジュ
板垣 義男

のほか、空き家見学や仕事に関する情報など、実際に移住先を選ぼううえで必要なプログラムを網



移住ツアーでは地元住民と交流を深めた